

第10回 南三陸町震災復興計画推進会議

と き 平成26年7月15日（火）

18:00～20:00

ところ 南三陸町志津川保健センター

2階大会議室

次 第

1 開 会

2 挨拶

3 会 議

(1) 平成25年度提言・要望の進捗状況

(2) 町の住まい・暮らしに関する話し合いと発表

(3) とりまとめ

4 閉 会

(資料)

- 資料1 第9回復興計画推進会議結果のまとめ 1
- 資料2 第10回復興計画推進会議のテーマと進め方 5

第11回 復興計画推進会議の予定：

平成26年9月 日（ ）18:00～20:00

第9回推進会議結果のまとめ

6月16日（月）に行われた第9回南三陸町復興計画推進会議の討議結果をご報告します。今回は、第8回会議に引き続き、町の住まい・暮らしの状況と課題についてグループ討議が行われました。

1. 平成25年度提言・要望の進捗状況の報告（仮設運動広場）

1. 町からの報告

- ・ 5月28日に仮設運動広場の利用が開始され、広場の名称は「志津川地区仮設運動広場」ということになった。
- ・ 5月26日に推進会議の委員やグラウンドゴルフ協会のメンバーに集まって頂き、広場の利用方法について議論した結果、午前中はグラウンドゴルフに、午後は皆さんで利用して頂こうということになった。
- ・ 設置要望のあった道具入れ、ベンチは既に設置されており、トイレも設置する予定である。

2. 委員からの報告

- ・ 道具入れは、知り合いの協力を得て設置してもらい、ベンチも、グラウンドゴルフ協会のメンバーが作成したものである。
- ・ 初心者向けの道具の貸出があれば、利用者の範囲が広がっていいと思う。

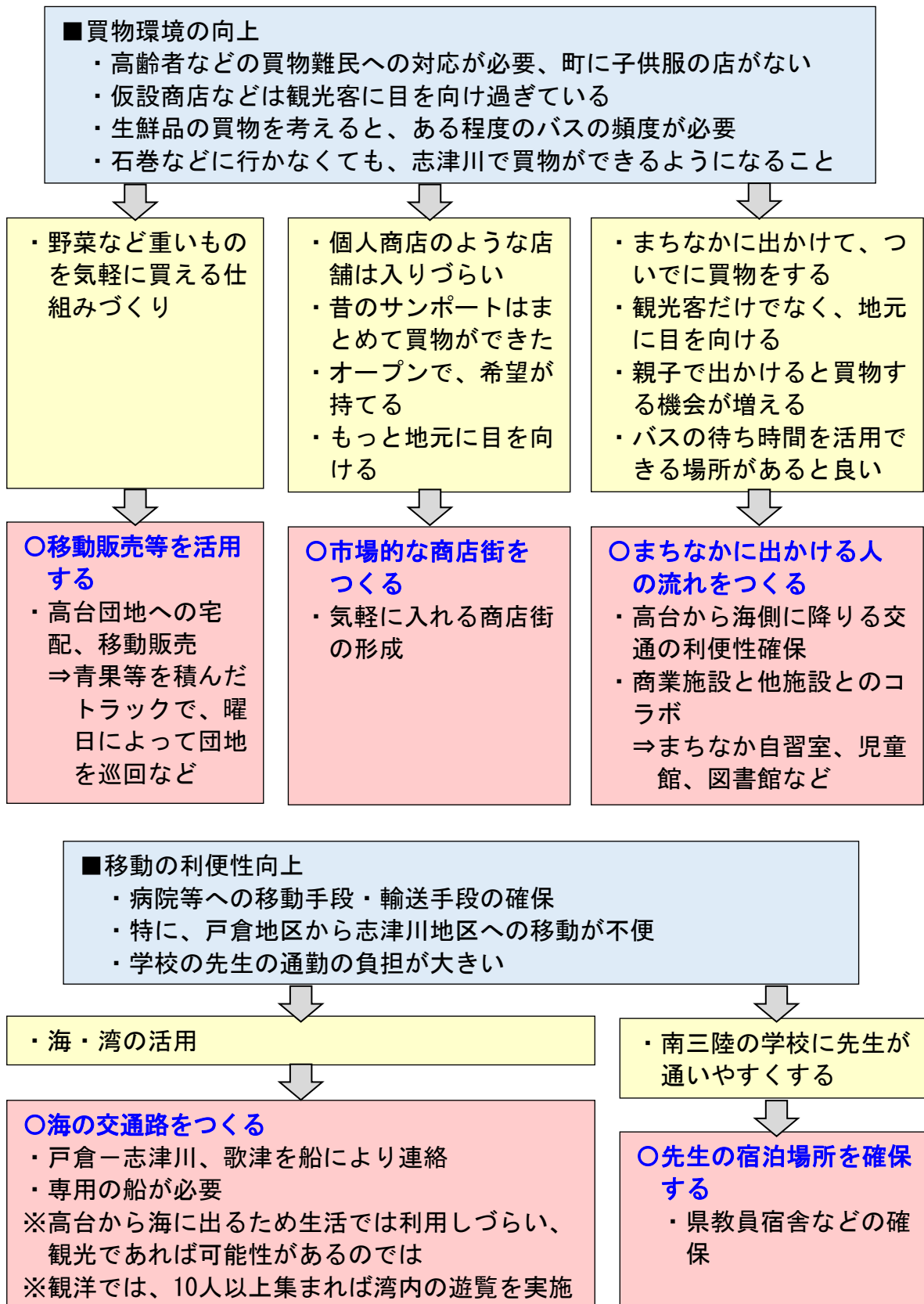
《志津川地区仮設運動広場の状況》



2. グループの討議結果

グループ討議では、「高台団地・住宅に住むときの暮らしの課題とアイデア」について討議が行われました。討議で出された意見をまとめると、以下のようになります。

① 高台団地・住宅に住むときの「暮らし」を便利にするための「アイデア」



課題

考え方

解決策

②高台団地・住宅で快適な暮らしを送るための「アイデア」

■交流の場、新しいコミュニティの形成

- ・住まいがばらばら
- ・情報が入ってこない
- ・公共施設への提案をあまりしていない
- ・憩いの場がない



- ・各地区の課題を共有し、分かち合う
- ・新しいコミュニティ形成のチャンスとしてとらえる



- ・公共施設の設計に声を届ける機会づくり
- ・役場の人と町民が話ができる機会や場をつくる



- ・縁側文化、お茶っ子文化からヒントを探る
- ・小さな団地を暮らしやすくする



- 高台つながり協議会をつくる
- ・やわらかい協議会のような組織
- ・定期的な交流会の開催など



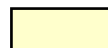
- 町民が話をできるスポット、パブリックハウスをつくる
- ・町に意見を聞いてもらえる機会づくり
⇒行きたくなる役場、役場にカフェ
皆が集まる図書館



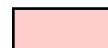
- 情報交換、交流の場をつくる
- ・役場内、まちなかにまちの茶の間をつくる
⇒しおだまり、東屋、道の駅のような機能
- ・団地の中などに、共同菜園、ふれ合い農園などをつくる



課題



考え方



解決策

3. 学識者委員・有識者委員の講評ととりまとめ

1) 三浦委員

- ・いろいろな課題や意見を、町などに提案をしていただくことが一番いいと思う。
- ・移動手段がある方と、ない方、お年寄りもいらっしゃるので、交通の問題をどういうふうにしていくかということが気になる。
- ・病院や買物の足、お年寄りの一人暮らしの方々をどうしていくのかということが、大きな問題になってくると思う。

2) 稲葉委員

- ・買物の話で市場方式という話があり、八戸の朝市を思い出した。岸壁朝市といって、非常に広いところに300店舗から500店舗くらいが参加する日曜日の朝市があり、観光客だけでなく地元の方が買物に来る。非常に出店料が安く、出店がしやすいのも特徴である。
- ・出店したい人をたくさん集めると、すごくバリエーションも増えるので、買いたくなるし、あそこに出店するととても楽しいらしい、という話が話題になると、違った意味で活気づくのではないかと思う。
- ・仕事がないとか、仕事をつくらうという話があったときに、自分でその場に行って売るとことや、売ることではできなくても紹介するとか、そういう場にしていくといいのではないかと思う。
- ・八戸の朝市は野菜ばかりが並んでいる通路があったり、魚を売っている通路があったり、帆船の模型を売っている人がいたり、馬肉鍋があったり、パンがあったり、幼虫キャンディがあったり、いろいろなものがある、行くだけでも楽しい。そういう場がひとつできれば、観光客も、地元の方もいいなど想像した。

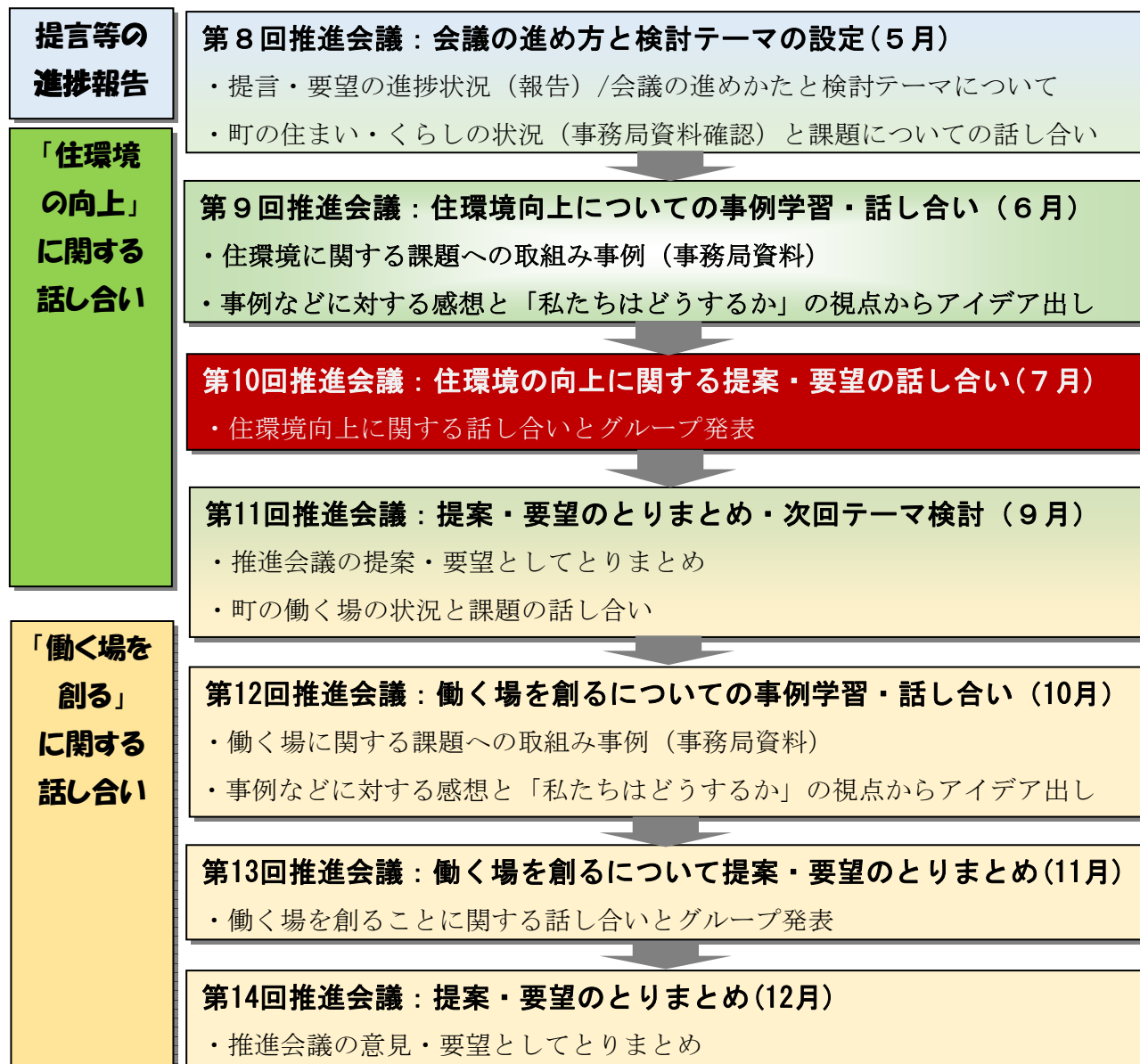
3) 宮原委員長

- ・高台に皆さんがお住まいになった後、海と町の賑わいをつくっていくときに、どういう人の流れが可能なのかなというのがあって、これは道路であったり、バスだったり、交通の便に関わってくるのではないかなと思う。
- ・住民の方の目線での移動のしやすさを考えて欲しいし、湾を利用するような私たちの可能性を突き詰めてもらえたらいいと思う。
- ・学校の先生の住宅の問題、子供たちの自習室やみんなが待ち合わせをして、そこから家に帰っていけるような安全な場所など、生活している中でこういうのがあったらというのがまだまだ出てくるのではないかなと思うので、引き続き次回もリアルに生活を想定しながらいろいろなアイデアを出していただければと思う。

平成26年度の復興計画推進会議のテーマと進め方

1. 第10回推進会議の進め方

(1) 第10回会議の検討項目案



(2) 第10回会議の検討テーマ

前回のグループ討議で出された快適な暮らしを送るための課題とアイデアを取り上げ、アイデアについて、南三陸町への適性を確認しながら、推進会議としての提案をとりまとめていきます。

課題1：買い物環境の向上が必要

<●課題と☆解決のアイデア>

- 高齢者が買い物難民になる懸念がある。
→☆曜日によって巡回する団地を決めて**移動販売**をしてもらう。宅配も活用する。
- 外出機会を増やすには、親子で買い物ができるような店が欲しい。
→☆**子供服**の店があるとよい。**100円ショップ**があると親子でいける。
- 買い物客が入りやすく、お店も気軽に出店できる場が必要である。
→☆**市場のような商店街**をつくる。
- バスの待ち時間を有効に活用できる場所があるとよい。
→☆店のそばに**図書館**や**児童館**、**まちなか自習室**などの滞在できる空間を併設する。
- ICができたときに町外に流出しないように地元で買い物ができることが必要である。
→☆観光客だけでなく**生活者に目を向けた品揃え**が必要である。

<南三陸町への適性>

- ◆団地にも商店街から**移動販売**や**宅配**にきてくれるだろうか？
*参考事例1参照
- ◆**子供服の店**や**100円ショップ**の出店予定はあるのだろうか？
- ◆**市場**のように買い物できる場ができる予定はあるのだろうか？
*参考事例2参照
- ◆**図書館**の場所は商店街とは別に計画されている。一方、**休憩所***を設け賑わっている商店街も出てきています。*参考事例3参照
- ◆生活には、**生鮮3品**や**惣菜**、**生活用品**、**生活雑貨**を扱う**お店**が必要だが高台団地から行ける場所にできるのだろうか？

<買い物環境の向上についての推進会議の提案>

- ◎
- ◎
- ◎
- ◎

町への適性を考えて、アイデアをまとめていきます

課題2：移動の利便性向上が必要

<●課題と☆解決のアイデア>

- 生鮮品を買うにはバスの運行本数を確保することが必要である。
→☆**町民バス**に高台団地まで来てもらう。運行本数も確保する。
- 南三陸病院等への移動手段・輸送手段の確保が必要である。
→☆病院と各団地を**町民バス**等で結ぶ。
- 戸倉地区から志津川地区の移動が特に不便で対策が必要である。
→☆**海の交通路**をつくってはどうか。
- 転勤をしてきた先生の住まいが遠く通勤の負担が大きいため、先生の負担を軽減するための対策が必要である。
→☆学校に近いところに**教員宿舎**を作ってはどうか。

<南三陸町への適性>

- ◆**町民バス**は高台団地まで来ることができるのだろうか？
- ◆**高台団地から港が遠く**、車で港まで行かないといけないのでは？また、採算面からも船を運航することは難しいと思われます。
→県内では、江島（女川町）、石巻～網地島（石巻市）、朴島・桂島・野々島（塩竈市）、大島（気仙沼市）等「離島」の生活維持に対して補助が出されていますが、戸倉～志津川は、陸上でも行けるので**補助を受けるのは難しい**です。
- ◆場所と予算の確保ができれば**教員等のための宿舎**を建設できる可能性はある。

<移動の利便性の向上についての推進会議の提案>

- ◎
- ◎
- ◎
- ◎
- ◎

町への適性を考えて、アイデアをまとめていきます

課題3：交流の場、新しいコミュニティの形成が必要

<●課題と☆解決のアイデア>

●高台団地や個別移転などで住まいが分散するなか、新たな地域コミュニティの形成が必要である。

→☆高台団地をつなぐ話し合い・情報交換の場をつくる。

●住まいが分散するなかで、地域情報などを共有することが必要である。

→☆役場内やまちなかに「まちの茶の間」をつくり、情報交換をする。

→☆高台団地に共同菜園やふれあい農園を作ってはどうか。

<南三陸町への適性>

◆「町民の部屋がある役場」もあるが、町の役場内やまちなかに町の茶の間のスペース*は確保できるだろうか？ *参考事例3参照

◆高台の緑地は町有地になるので、町の許可を得て花壇等を設置することは可能であるが、菜園等は現時点では難しい。

<交流の場、新しいコミュニティの形成についての推進会議の提案>

- ◎
- ◎
- ◎
- ◎
- ◎

町への適性を考えて、アイデアをまとめていきます

参考事例

今回のテーマに関連して参考事例をご紹介します。

参考事例1＝ポイントカード事業を活用した**無料宅配**：静岡県御殿場市森の腰商店街＝

◆きっかけ

御殿場まちづくり(株)が運営するコミュニティ施設併設のショッピングセンター「エピ」を核店舗に、食料品、日用雑貨品、衣料品、サービス業などが混在する**近隣型の森の腰商店街への来街者は高齢者が多く**、お客様の声を受け、ここ数年商店街内の多くの店舗から宅配・送迎の事業実施を望む声が高まっていた。平成22年度地域商業活性化事業の採択を受け、平成23年4月より**車両2台体制で無料宅配事業を本格的にスタート**させた。

◆実施状況

専従者2名を雇用し、御殿場市内を中心に、注文を受けた商品の宅配と、荷物の持ち運びも手伝う送迎を実施。商品1つからでも宅配するサービスの良さも好評である。電気自動車、ハイブリッド車各1台を使用することで環境にも配慮している。事業は好評で、翌年には、**高齢者の、「実際に自分の目で見て商品を購入したい」という声に対応し、送迎用の低床式の車両を導入し、専従スタッフを増員**させた。



図 御殿場市森の腰商店街

◆成功要因：ポイントカード事業の収入を運営費にまわす仕組みと三法人の連携の良さ
本商店街では、昭和39年に設立した(協)森の腰商栄会が元となり、その青年部員が出資して(株)アクティブモコを設立し、併せて、組合員が出資し御殿場まちづくり(株)を三セクで設立した。このような経緯から**三者が常に連携し、商店街のソフト事業・ハード整備事業の役割分担を決めて実施**している。

買い物弱者対策事業では、(株)アクティブモコが行う**商店街ポイントカード事業加盟店の商品を扱っており、加盟店からの手数料により運営費を捻出**している。そのため、利用者側の費用負担を求めずに**事業を実施することができている**。

その結果、平成24年度の宅配件数は前年度の倍以上の約6,200件と、高い実績をあげている。



図 買い物支援の様子

資料：がんばる商店街30選

＝参考事例2：市場の様買い物できる場：青森県八戸市の朝市＝

◆賑わいの状況

日の出から開催されるこの朝市は、八戸市内はもとより近隣町村からの美味しいものが大集合。毎回400前後が立ち並びお店はもとより、品定め・散策する人の熱気に圧倒されます！（最大約3万人が来場）

炭火焼の魚や手づくりのウニごはん、そして獲れたて新鮮なイカのお刺身、美味しそうな光沢を放つ筋子などの魚卵、地元製麺所が店を出すラーメンやうどんなど、何を食べようか品定めしているうちにあっという間に時間が経ってしまいます。もちろん海産物などの珍味、採れたての野菜や果物、手づくり惣菜や生花も立ち並び、コーヒーショップや雑貨、古道具まで売っています。



図 八戸市の朝市のにぎわい

◆足の確保

ワンコインバスの運行やホテル宿泊者を対象とした朝市と銭湯での朝風呂が体験できる「あさぐる」とよび乗合タクシー（前日22時までホテルフロントで申込み）を運行して、市場までの足を確保しています。



図 「あさぐる」と呼ぶ乗合タクシーの行き先

資料：あさぐるホームページ等

＝参考事例3：まちの休憩所：福岡県糸島市イリスロード伊都商店街のふれ愛処＝

◆作ったきっかけ

郊外大型店の進出などにより、中心市街地が衰退しつつあり、商店街に賑わいを取り戻し商店街全体を活性化させることが急務となっていた。そこで、平成15年に、**空き店舗の解消と少子高齢化社会への対応及び、商店街に賑わいを創出するための事業としてコミュニティ施設「ふれ愛処」をオープンさせた。**



イリスロード伊都商店街

◆ふれ愛処の内容

コミュニティ施設「いとしま ふれ愛処」は、糸島市の中心部商店街であるイリスロード伊都商店街内の空き店舗を借り受けて活用している。（整備費は約4百万円）また、**図書の管理はNPO法人糸島シニアネット、託児サービスはゆりかごの会が行っている。**

施設概要

1階「**やすみ処**」

- 壁画ギャラリー等を兼ねた休憩所
- 福祉団体による展示販売・地元産品販売
- 展示スペースは有料貸出し

2階「**よみ処**」

- 会員及び地域住民から**書物の寄贈**してもらい**簡易的ミニ図書館**として活用
- 絵画・写真等の展示スペース
終日無料（会議室利用は1時間500円）
- パソコン教室、サークル関係等の交流スペースとして活用（有料貸し出し）

3階「**しゅみ処**」

- 託児サービス（ゆりかごの会）
2時間500円

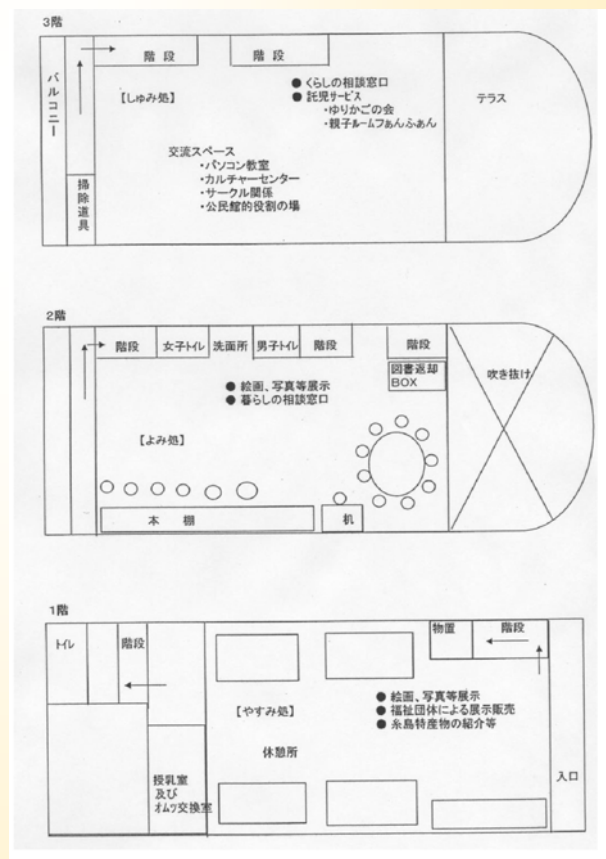


図 ふれ愛処見取り図

◆活動状況

上記のほかにも、交通事故に関する無料相談会など**暮らしの相談窓口**、日本棋院系島支部による**囲碁クラブ**開催など定期イベントを継続しながら、地産地消を推進するために**地元産品**、**社会福祉授産施設による産品の即売会**等も行い、近隣**商店街に経済的波及効果**をもたらす活動に注力している。

資料：商店街活性化事例集ホームページ等